

牛の第四胃左方変位における腹腔鏡による第四胃整復固定術の検討

磯動物病院：栃木県

磯日出夫,小中一成,小野田麻衣,内山史一,加藤真紀,山田裕

1. はじめに

近年、食の安全が重要視される畜産現場では薬剤使用が制限され、家畜に対する福祉の重要性も求められている。一方、第四胃左方変位(LDA)は増加傾向にあり、右臍部切開法による治療が圧倒的に多く選択されるが、疼痛が大きく妊娠末期の症例には施術困難という問題がある。そこで、疼痛が少ない腹腔鏡手術によって整復固定する方法を考案したので報告する。

2. 材料および方法

症例は左側腹部に第四胃のピンギング音を聴取した 22 例を用いた。手術は左臍部の最後肋骨側を第 1 ポートとして腹腔鏡を挿入し、第 9~10 肋骨または第 10~11 肋骨間に第 2 ポートを設置した。そこに長カニューレを挿入し、第四胃の胃内容物を除去しながらトグルピンを投入した。縮小した第四胃が前下方に消失した後、長穿刺器の内針先端にトグルピンの糸を結び、右胸骨部の乳静脈を避けた位置に刺し出し、糸を牽引して第四胃を腹腔内壁に近づけ結紮固定した。また、本法と右臍部切開法において手術時間、疼痛症状、食欲回復状態などを比較した。

3. 結果

22 症例行い、13 例は結果が良好であった。非処置の 5 例は第 1 ポート用トロッカー挿入後に腹腔鏡により第四胃が確認されなかったため手術を中止した。1 例は第四胃を再度穿刺固定したため死亡した。3 例はトグルピンの糸を牽引することができず整復困難と判断し糸を切除した。この症例は後に右臍部切開法を施した。また、成功例には妊娠末期のものが 2 例含まれていたが本法により治癒した。以上の成績から、この術式の成功率は 59.1%(13/22)であり、第 1 トロッカー挿入後に第四胃を見失った 5 例を除いた治癒率は 76.5%(13/17)であった。また、本法は右臍部切開法に較べて多くの優位点があるが、機材が高価な点が短所であった。

4. 考察

本法は術式が簡単で特別な技術を必要とせず、施術困難な場合は直ちに右臍部切開法に移行することができるので処置法の選択の面で安全性が高く、特に妊娠末期の症例に有効であると考えられた。死亡例については整復時に留意することで回避できると思われた。また、機材の価格に関しては腹腔内を精査できるので、LDA 以外の疾患での腹腔鏡診断や処置が行えることなどで診療の精度が高まり、獣医師の信頼も高まることを考慮すれば、決して高価なものではないと考える。また、術後の抗生物質の投与が不要であるため牛乳廃棄が少なく、生産獣医療の点でも有利である。さらに患畜に対する手術侵襲が少ないことは益々重要視される動物福祉の観点からも、本法は第四胃左方変位の処置法として有用であると考えられた。